

新中期経営計画(2024-2026年度)

# KUMI STORY 2026

クミアイ化学グループは2024年10月期を初年度とする3カ年の中期経営計画(KUMI STORY 2026)を策定しています。前中期経営計画は「事業領域、研究領域の拡大のための種まき」の時期と位置付けましたが、新中期経営計画は、このまいた技術・事業の種を発芽させ、今後の成長ステージに進めるための基盤強化・拡大の期間と位置付けています。

100年企業としてのあるべき姿と新中期経営計画の位置付け



100年企業としての「あるべき姿」

**独自技術で豊かな暮らしを支え  
自然と調和した社会の持続的発展に貢献する  
フレキシブルで存在感のある企業グループ**

当社は、2048年に創立100年を迎えます。前中期経営計画(2021-2023年度)の策定に当たっては、20~30年後の市場環境を予測し、100年存続しさらに成長し続ける企業グループであるための「あるべき姿」として「独自技術で豊かな暮らしを支え、自然と調和した社会の持続的発展に貢献するフレキシブルで存在感のある企業グループ」を設定しました。そして、この「あるべき姿」を踏まえた事業領域、研究領域拡大のための種まきを行う時期と位置付けて活動を行ってきました。その結果、経営数値目標を1年前倒しで達成しただけでなく、最終年度(2023年度)の売上高、営業利益、親会社

株主に帰属する当期純利益は過去最高となりました。そのような中、2024年度から始まった新中期経営計画(KUMI STORY 2026)では、新たな種まきを継続しつつ、前中期経営計画でまいた事業領域、研究領域を拡大するための種を発芽させ、より具体的な形に育成し、今後の成長ステージに進めるための基盤強化・拡大の期間と位置付け、「あるべき姿」の実現に向けてステップアップを図ります。この意味合いを含め、新中期経営計画のビジョンを「Create the Future~できる。をひろげる~」としています。

新中期経営計画の概要

基本方針

経営基本方針は、「革新的な技術開発、事業領域の拡大により、環境変化に対応可能な経営基盤を構築し、人々の暮らしを豊かにする製品・サービスの提供を通じて、サステナブルな社会の実現に貢献できる企業集団を

目指す」としています。これに基づいた重要方針および各施策を着実に実行していくことで中期経営計画の達成を目指します。

資本政策

今後の企業価値の持続的な向上のためには、成長投資を継続していく必要があります。中期経営計画では、当社グループとして初めて資金の使い方を示すキャピタル・アロケーションを開示しました。総額900億円の資金を配当還元、借入返済、成長投資に適切に分配していくことで、企業価値のさらなる向上を図ります。

	2023実績	2026目標
売上高	1,610億円	1,850億円
営業利益	141億円	160億円
当期純利益	180億円	150億円
ROE	14.5%	11.0%以上
ROS(売上高営業利益率)	8.8%	8.5%以上 ※中長期目標は10%以上

数値目標

中期経営計画最終年度の数値目標は、売上高1,850億円、営業利益160億円、当期純利益150億円としました。また、ROE(自己資本利益率)を11.0%以上、ROS(売上高営業利益率)を8.5%以上に設定し、収益力の一層の強化を図ります。さらに、配当政策については、配当性向30%以上を安定して達成することを目標として設定しています。

	2021-23実績	2024-26目標
設備投資	243億円	276億円
研究開発費	163億円	220億円

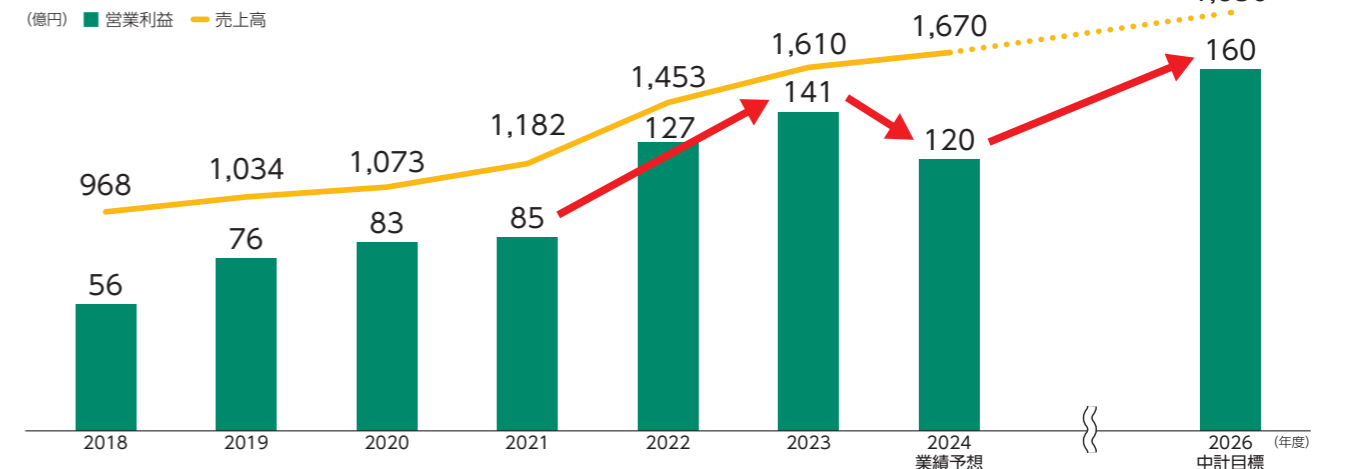
2024-26目標	
配当政策	配当性向 30%以上 収益動向を踏まえた株主への還元および企業体質の強化と将来の事業展開に備えるための内部留保などを総合的に判断しつつ、安定した配当を継続して行う

2024~2026年度の見通し

前中期経営計画期間(2021~2023年度)は、当社グループの主力製品であるアクシーブ®が大幅に成長したことにより、売上高、営業利益ともに大きく増加しましたが、新中期経営計画初年度の2024年度は世界的な農薬の流通在庫の調整や、アクシーブ®のジェネリック対策のため一部地域での価格対応の実施、コスト増加などにより営業利益が減少する見通しです。しかし、2025年度以降

は在庫調整が完了し、拡大余地のある地域や作物への普及、適切なジェネリック対策を講じることでアクシーブ®のさらなる成長が期待できます。加えて、自社剤のエフィーダ®、ディザルタ®の拡販、化成品事業における事業領域の拡大といった各種施策を遂行していくことで、最終年度の2026年度には過去最高となる売上高、営業利益を達成する計画です。

売上高・営業利益推移




新中期経営計画の重要方針とアクションプラン・KPI

「あるべき姿」の実現へ向け取り組むべき重要課題として特定したマテリアリティの中から、中期経営計画の3年間に特に取り組むべき7つの課題を抽出して重要方針として設定し、この重要方針に基づく主な重点施策と取り組み内容を掲げています。


**持続可能な農業への貢献／高品質な製品・サービスの安定供給**

これまで当社グループの事業をけん引してきたアクシーブ®の最大化を図るべく、最大限のジェネリック対策に加え、販売拡大が見込める地域での拡販を進めます。また、自社剤のエフィーダ®やディザルタ®についても国内外でのさらなる拡販を目指すとともに、省力化製剤である豆つぶ®剤の普及面積を拡大し、農作業の省力化や環境負荷低減に貢献します。さらに、化成品事業を農業及び農業関連事業に次ぐ第2の柱とすべく、既存事業の拡大や最先端分野の受託テーマに挑戦していきます。

<p>アクシーブ®の売上計画 (2026年度)</p> <p><b>842</b>億円</p>	<p>豆つぶ®剤が使用された農地面積 (2026年度)</p> <p>水稲栽培面積比 <b>1</b>%増 (2022年度比) <small>マテリアリティ KPI</small></p>	
---	--	--

**気候変動・環境負荷の低減**

農業及び農業関連事業を展開する当社グループにとって、気候変動・環境負荷の低減さらには生物多様性の保全是非常に関連が深く、重要度の高い経営課題であると認識しています。気候変動・環境負荷の低減への対応としてGHG排出量削減や廃棄物削減のKPIを定め、達成に向けて取り組んでいきます。また、当社グループが持つ技術や知見を活かし、生物多様性の維持や循環型社会の実現への貢献など、地球環境の保全に取り組みます。

<p>温室効果ガス排出量削減目標 (2030年度)</p> <p>2019年度比 <b>30</b>%削減 <small>マテリアリティ KPI</small></p>	<p>廃棄物ゼロエミッション (2026年度)</p> <p>埋立処分率 <b>1</b>%以下 <small>マテリアリティ KPI</small></p>	
--	---	--

**研究開発力の強化**

新農薬創製に向けた取り組みをさらに加速させるべく、IT・AI技術を活用したスクリーニングや効率的な創薬・製剤・生物評価方法の確立を進めます。また、微生物農薬、バイオスティミュラントといった新たな社会要求に応える資材・技術の開発や、温室効果ガス抑制技術や新素材の開発などの新たな価値創出に向けた取り組みも推進していきます。

<p>新農薬(有効成分となる新規化合物)の開発</p> <p><b>3</b>年に<b>1</b>剤</p>	<p>特許出願件数 (2026年度)</p> <p><b>100</b>件 <small>マテリアリティ KPI</small></p>	
--	--	--

**事業領域の拡大と新規事業の推進**

当社グループ事業のキーワードである「農業・農薬、化成品」を中心とし、その周辺の新規分野への事業展開の推進のためM&Aの実施を積極的に検討していきます。また、前中期経営計画期間に子会社化したAAI社が持つ海外の販売ルートや製造技術、アグリ・コア社やGRA社が持つスマート農業の技術と当社グループが培ってきた知見、ノウハウを活かした協働により、さまざまなシナジーを最大限に引き出し、事業の収益力強化につなげます。



**人財の育成／人的資本の考え方をベースにした人財戦略**

当社グループでは、人財が企業の持続的成長に欠かせない最も重要なファクターと捉えています。中期経営計画では、スローガンである「夢」と「幸せの三角形」に沿った人財戦略ビジョンを打ち出すとともに、アクションプランを策定し、その実現に向けてダイバーシティ&インクルージョン・ワークライフバランス・人事制度など各項目におけるKPIを設定のうえ、取り組みを進めていきます。

<p>健康経営優良法人 (2026年度)</p> <p><b>認定取得</b> <small>マテリアリティ KPI</small></p>	<p>男性育児休業取得率 (2026年度)</p> <p><b>100</b>% <small>マテリアリティ KPI</small></p>	<p>1人当たりの研修時間 (2026年度)</p> <p><b>25</b>時間 <small>マテリアリティ KPI</small></p>
--	---	--


**コーポレートガバナンスの高度化**

「コンプライアンスに関する基本方針」ならびに「リスク管理に関する基本方針」を基に体制を整備・構築し、引き続きコーポレートガバナンスの強化に向けた取り組みを継続します。また、人権デュー・ディリジェンスや、国連グローバルコンパクトへの参加などを通じ、人権尊重に関する取り組みも進めていきます。

<p>リスク管理体制の 構築</p>		
------------------------	---	---

**DX化の推進／デジタル化の実践**

デジタル化を推し進めることにより、業務効率化や生産性の向上を図り、ビジネス環境の激しい変動に対応していきます。新たな人事給与システムの導入に加え、生成AIの利活用を進め、AIやデジタル技術を活用した創薬手法や、化学物質の管理などのデジタル化、工場設備のオートメーション化を行います。

<p>デジタル化の実践</p>	<p>AIなどを活用した 創薬手法の検討</p>	
-----------------	------------------------------	---